

令和6年度 自己評価表

中長期目標	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたいと、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------	---	----------	--

評価基準 A：十分達成〔100%〕 B：概ね達成〔80%程度〕 C：変化の兆し〔60%程度〕 D：まだ不十分〔40%程度〕 E：目標・方策の見直し〔30%以下〕

評価項目		評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1	学力の向上	① 授業改革と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業の工夫改善に努めている。「私は授業に満足している」とする生徒の割合が84% 授業でのICT活用が浸透しつつある。「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が71% 授業等におけるSTEAMLabの活用や公開授業など、STEAM教育の実践に向けて取り組んでいる 基礎力診断テストの分析や現状把握に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 「私は授業に満足している」とする生徒の割合が80%以上を維持している 「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が70%以上 鳥工版STEAM教育を通して、生徒が教科横断的・融合的によく学んでいる 基礎力診断テストの評価が向上している 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開等を通して、授業をより改善するための意見交換を各教科で継続する 教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する STEAMLabを積極的に活用しながら、その成果を各教科で共有し、応用・実践する 基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする 	<ul style="list-style-type: none"> 7月の授業評価アンケートの結果を踏まえ、各教科で授業の内容や手法の工夫改善に努めている 多くの教科でICT機器を活用した授業実践に努めている 6月に学力向上職員研修会を開催し、STEAM Labの活用方法を研修。授業や放課後などSTEAM Labを積極的に活用している 基礎力診断テストの結果を職員間で共有しているが、授業へのフィードバックという点ではやや不十分である 	B	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業等を通して、授業をより改善するための意見交換を行う 教科会等において、ICT活用例を共有し、積極的に実践していく 引き続きSTEAM Labの積極的活用を促していく 基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする
		② 主体的な学習態度と実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 授業の規律を随時周知し、「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が87% 知的好奇心を刺激する授業づくりに努め、「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が87% 面談を通じて日々の自宅学習に対する姿勢を確認し、R5.11月自宅学習時間調査1日平均99分（R4：117分、R3：100分、R2：80分） 資格・検定の案内とともに各科・各教科で合格に向けて補習指導を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が80%以上を維持している 「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が80%以上を維持している 11月自宅学習時間調査が1日平均100分以上を維持している 多くの生徒が資格取得・検定合格に向けて努力している 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活指導方針」に基づき、授業規律の周知・徹底を継続する STEAM教育を念頭においた授業研究を継続する 担任・学年団等による面談をきめ細かく行い、学習意欲や進路意識を高める 資格・検定の情報を生徒に周知し、面談等を通じて取得を促す 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の問題行動が起きた時、速やかに対応 教室棟巡回業務を行い、盗難の防止、節電に努めた 先端分野やSTEAM教育を意識しながら、各教科で知的好奇心を刺激する授業に努めている 生徒面談を通じて学習に取り組む態度を確認し、自宅学習時間が目標の100分を上回っている（自宅学習時間調査／R4.6月：150分、R5.6月：138分、R6.6月：138分） 資格・検定の案内を行い、進路意識を高めている 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の問題行動に対して、学年と連携し一層速やかな対応する 教室巡回業務を継続する これからの社会で活躍するために必要な力を意欲的に身に付けられるよう、授業を継続的に工夫する 面談を適宜行い、授業態度や進路意識を高める 日々の学習と進路意識の向上を繋げていく
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> 面談、各種アンケート（ハイパー・QU・いじめ・生活振り返り等）、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している 人権教育LHR、性に関する指導LHR、5S・あさひの指導等を通じて、互いを尊重し合う意識を高め、「互いを尊重し合いながら学校生活を送っている」とする生徒の割合が87% 校内WEB掲示板等を通じて、人権教育関係研修会への積極的な参加を呼びかけ、参加者はその成果を様々な場面で発信している 	<ul style="list-style-type: none"> 悩み等を相談でき、一人一人が安心して学校生活を送っている 一人一人が人権の尊重された学校生活を送っている 日々の生活の中で人権問題に気づき、考えながら学校生活を送っている 	<ul style="list-style-type: none"> 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する 人権教育LHR、性に関する指導LHR、5S・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高める 人権教育関係の研修会等に積極的に参加し、その成果を様々な場面で指導に活かす 	<ul style="list-style-type: none"> 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している 人権教育LHR、5S・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高めている 人権教育関係研修会等の参加者が少なく（R6.9月末現在：15.3%）、その成果を様々な場面で指導に活かせていない 	C	<ul style="list-style-type: none"> 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応を継続する 保健、相談、人権関係のLHR等を通じ、互いを尊重する意識を高める指導を継続する 人権教育関係研修会等に積極的に参加することを促し、その成果を様々な場面で指導に活かせるよう情報を提供する
		② 健全な心身と社会貢献精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各種安全教室、朝の交通指導、5S・あさひの指導等を行い、「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が95% 9つの部活動・同好会の生徒が中国・全国大会へ出場している 年2回テクノボランティアを実施。桜ヶ丘グリーンゾーン活動へも参加した 2019年度比で2月末で可燃ゴミ排出量27.1%減、電力使用量4.2%増であった 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が90%以上を維持している 多くの生徒が部活動に熱心に取り組み、大会等で活躍している 社会貢献の意識が高まり、ボランティア活動等に積極的に参加している 環境改善の意識が高まり、2019年度比で可燃ゴミ排出量5%減、電力使用量1%減となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 各種安全教室、朝の交通指導を行い、また5S・あさひについて積極的に指導する ホームページや広報誌を通じて、部活動の成果や成績を積極的に公開し、意欲を促す 様々な機会を通じて社会貢献への意識を高め、ボランティアへの積極的な参加を呼びかける（chrome book活用） 可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 各種安全教室は計画通り開催できている。朝の交通指導を行い、交通安全指導を含め、「5S」「あさひ」の指導に努め、効果を発揮している ホームページを通じて、部活動の成績を積極的に発信している ボランティア活動として、桜ヶ丘グリーンゾーン活動へ参加した 環境標語ポスターの制作を行った 電力使用量とも年度当初は達成できていたが、猛暑の影響で電力使用量は5月以降達成できていない 	C	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用防止教室を予定通り開催する。また、朝の交通指導を継続し、「5S」「あさひ」についても積極的に指導する 引き続き部活動の情報発信に努める ボランティア活動等を通して、地域貢献に努める 可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う TEAS講演会を実施する
3	キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学は3学年とも実施した。鳥工版デュアルシステムは機械科・電気科で実施した。インターンシップは第2学年で実施した 鳥工TECや課題研究発表会等において学習成果の発表・展示を行うなど、ものづくりに熱心に取り組んだ 一人一資格取得率・検定合格率は全体88.3%（3年95.6%、2年81.0%、1年85.7%） スーパー工業士に11名の生徒が認定された 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的知識・技術に加え、社会人としての資質を身につけている 学習成果の発表・展示に向けて、生き生きと「ものづくり」に取り組んでいる 年間の一人一資格取得率・検定合格率が60%以上、かつ3年間で一人一資格取得率・検定合格率が90%程度を維持している 第2期のスーパー工業士に応募した生徒が、全員認定される。第3期生について、全ての科から認定者を輩出する 	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を行う 鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等において、学習成果の発表・展示を行う 資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行う スーパー工業士の趣旨を説明し、第3期については全ての科から応募を募り、認定に向けて指導する 	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステム等を実施できた（9月末現在） 中学生体験入学を予定どおり実施し225人の中学生、保護者が参加した 資格・検定に多くの生徒が挑戦し、取得に向けてきめ細かく指導を行った。また、高校生ものづくりコンテスト中国地区大会（溶接部門）に2名出場、ジュニアマイスター顕彰認定（前期）は1名であった 	C	<ul style="list-style-type: none"> 鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、課題研究発表会等は今後実施予定 今後も様々な資格検定の奨励、案内をしていく
		② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 校内外と連携して進路行事・進路指導を実施し、「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が89% 就職一次試験の合格率高く（R5：97%）、進学では推薦制度等を活用し8名が大学に合格した 個々の進路実現に向けて、面接指導・受験対策等を実施し「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が77% ICT機器を活用した、進路学習、情報の提供、受験対策が充実しつつある 	<ul style="list-style-type: none"> 各進路行事・進路指導を通して「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が80%以上を維持している 就職一次試験の合格率90%以上を維持し、進学では推薦制度等を活用し第1希望の学校に合格している 「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が80%以上 ICT機器を効果的に活用し主体的な進路学習を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所、外部機関等、校内外と連携・情報共有し、各進路行事を充実させる SPI・面接・小論文模試等、個々の就職試験や進学受験に応じてきめ細かく指導する 進路行事や各種情報を生徒・保護者に周知し、進路相談に対して丁寧に対応する ICT機器で進路情報の提供・活用ができるよう、環境を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所、外部機関、校内各分掌と調整・情報共有して各進路行事を予定通り実施している 全教職員協力のもと面接指導を行い、就職試験に向かわせることができた。進学指導について、個々の生徒の希望、取り組み状況に応じて普通科、専門科と連携しながら取り組んでいる 個々の進路希望状況に応じた、資料提供、進路相談等、丁寧に対応した ICT機器の活用として、各種進路行事、説明会等の情報提供や求人票の閲覧、履歴書の作成などの環境整備をすすめた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の進路希望状況、実態に応じてより効果的な内容となるよう、関係機関と連携する 引き続き、個々の受験内容に応じて対応するとともに、取組内容、受験報告等次年度に引き継げるよう整備する 充実した情報発信に努めるとともに、生徒や保護者からの進路相談に丁寧に対応する ICT機器による進路情報の提供、活用方法について他校の事例等も参考にしながら次年度に向けて検証・充実させる
		③ 地域や産業界との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 分野別進路ガイダンスを実施し、地域の企業の取り組みや魅力についての理解を深めている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したいと思っている」とする生徒の割合が84% PTAだよりや玄関内大型モニターで本校の特色等をPRした。「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が79% 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に貢献する人材としての自覚をもっている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したいと思っている」とする生徒の割合が85%以上 「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が80%以上。津ノ井地域からも高い評価を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を継続する ホームページの充実及びホームページ以外のSNSも併用した方法も検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 10月に分野別進路ガイダンス(1・2年対象)を実施した 出前授業や中学生体験入学を実施し、反応は良好であった。また、ホームページや学年通信(任意)等を通じて、学校の様子や特色等の発信に努めている 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を行う ホームページを更に充実させ、学校の特色や様子を多くの人に閲覧してもらうことが出来るよう工夫するとともに、SNS等での情報発信についても引き続き検討していく
4	業務改善の取組	① 5SとQCストーリーの実践	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事は終了時点で反省点がまとめられている。ネットワークフォルダ内を点検してファイルを整理し、業務マニュアルの保存場所を一部作成した 部活動実施計画書で時間外業務を確認し、月30時間を超える場合は調整を促している 時間外業務が月45時間を超えた職員は延べ12名で前年より減少した（令和5年度末）。年間を通じた時間外業務時間は令和4年度より約5%減少した。AI採点を試験的に導入、採点時間がかなり短縮できた 	<ul style="list-style-type: none"> 分掌業務が円滑に引継がれ、また、特別活動や学校行事は業務マニュアル化されて、担当者が変わっても滞りなく業務が遂行できる 部活動の実施計画段階で、時間外業務が月30時間以内に抑えられている 時間外業務が月45時間を超える職員が0名で、年間通じての時間外業務は、前年度より減少している 日常の業務が、前例踏襲に終始することなく、効率化が進められている 	<ul style="list-style-type: none"> 電子ファイルの整頓を確認し、業務マニュアル作成を促進、学校行事は終了時点で次年度に向けてマニュアルを整備する 部活動実施計画書に記載された時間を確認する 部活動実施計画書に記録された時間を確認する 勤怠管理システムの定期的な入力を通じ、教職員の各月時間外業務時間の本人確認を進める 業務のICT化やAI採点の導入を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 電子ファイルの整頓や担当分掌の変更や業務マニュアルの整備を推進し、次年度に向けての活用へ備えている 部活動実施計画書に記載された時間を確認し時間外業務削減を進めている 勤怠管理システムの定期的な入力を通じ、教職員の各月時間外業務時間の本人確認と時間外業務削減の助言を進めている 教職員の業務分担を見直し、負担軽減を進めている 校内掲示板による情報共有、Google Workspace、マチコメール等を活用した生徒・保護者への情報提供やデータベースによる文書閲覧を進めて業務の効率化を図っている 	C	<ul style="list-style-type: none"> 電子ファイルの整理と整頓や担当者の明確化を進め、さらに次年度の業務の効率化を目指す 引き続き、部活動実施計画段階で時間外業務の削減につながるよう調整を進める 勤怠管理システムへの入力を通して、時間外業務削減への意識づけを一層進める 保護者のフォーム入力による欠席連絡システムの定着を図る AI採点についてはさらに活用を進める

注) STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動 デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム QC（品質管理）ストーリー：問題解決の手順